



防災・減災対策

もしものときに備えましょう!!

風水害等のさまざまな災害が各地で発生しています。また、近いうちに南海トラフ巨大地震が起これと言われてます。

災害時には「弱者」となる小さな子どものいるご家庭ほど、もしもの時に対する備えが必要です。完璧な備えは難しいかもしれませんが、できることから取り組みましょう。

1 尼崎市防災ブックを活用しましょう

尼崎の地形の特性や想定される風水害・影響を及ぼす地震の情報、緊急時に役立つ情報も載っています。また、ハザードマップも盛り込まれています。それには、津波等一時避難場所や指定避難場所の一覧も表示されています。ぜひ、ご家族で避難場所まで歩いてみましょう。災害時には、各避難場所へ移動する途中で危険な場所があるかもしれません。2〜3ヶ所の避難場所の確認をしておくとお心です。

また、「尼崎市防災ネット」に登録し、すみやかに情報をキャッチし、迅速に対応しましょう。南海トラフ巨大地震も発生する確率が高くなっています。震度とゆれの状況も知っておきましょう。

※尼崎市防災ブックは平成26年12月に全戸配布しました。お手許にない場合は、尼崎市ホームページで閲覧することができます。



震度とゆれの状況

<p>【震度0】 人は揺れを感じない。</p>	<p>【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p>【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。</p>	<p>【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
<p>【震度4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。 	<p>【震度5弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、恐怖を覚え、物につままりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	<p>【震度5強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらないうちで歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多い。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●増強されていないブロック塀が倒れることがある。 	
<p>【震度6弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●立つていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 	<p>【震度6強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多い。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地帯りや山体の崩壊が発生することがある。 	<p>【震度7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多い。 	

この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。詳しい解説は気象庁ホームページに掲載しています。 気象庁震度階級解説表 <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

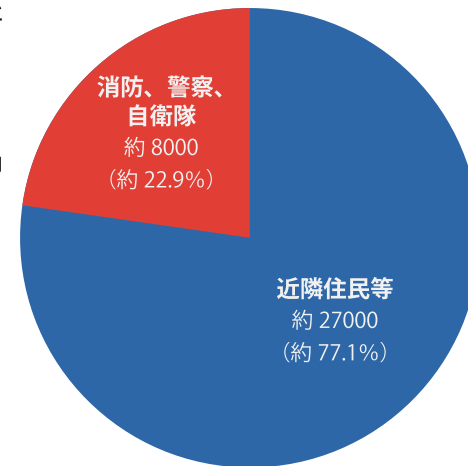
2 自助・共助・公助

- ❖ 自助—自分や家族の命を守るために取り組むこと
- ❖ 共助—地域で助け合うために取り組むこと
- ❖ 公助—国や自治体が行うこと

災害による被害を少なくするためには、「自助」「共助」「公助」の連携が必要です。

その中でも「自助」が基本であり、日頃からの備えが自分や家族の命を守ることに繋がります。災害発生時には行政により「公助」が行われますが、すぐに市内全域には救助に向かうことができないかもしれません。阪神淡路大震災では、約8割の人が近隣住民の「共助」によって倒壊家屋の下から救出されました。日頃から、ご近所さんと顔の見える関係を築いておきましょう。また、小さな子どもをかかえての避難は大変です。時には「力を貸して下さい!!」と勇気を出して声を上げることが必要なのもあります。

阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数



推計：河田恵昭（1997）「大規模地震災害による人的被害の予測」自然科学第16巻第1号参照。ただし、割合は内閣府追記。

3 非常備蓄品

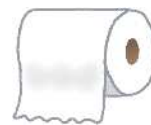
もし災害が発生したら、我が家には何が必要なのか想像してみましょう。災害後1週間は救援物資は届かないと想定して準備をしましょう。

① 食料

ただ蓄えているだけでは消費期限が過ぎて、いざという時には食べることができません。水、米、インスタントスープ、みそ汁、レトルト食品など、食べ慣れている保存性の高いものを少し多めに購入し、消費しながら備蓄しましょう。（ローリングストック法）特にアレルギー体質の子どもは普段から食べ慣れているものをしっかり確保しましょう。



② トイレトペーパー



トイレトペーパーの国内生産の4割は静岡県で生産されています。東海地震等で静岡県が被災した場合にはトイレトペーパーが全国的に深刻な供給不足になる恐れがあります。東日本大震災が発生した時も、全国的にトイレトペーパーが不足しました。普段から、日常使用分とは別に1ヶ月程度の備蓄をしましょう。また、オムツ等も備蓄があると安心ですね。

③ トイレ不足

災害時には、断水、排水管の破損の恐れがあるので、使用できることが確認できるまで簡易トイレなどでしのぎましょう。指定避難場所に仮設トイレがすぐに設置されるとは限りません。自宅で生活する場合は、自宅の便器や携帯トイレ等を利用して排泄をしましょう。排泄は生理的なものです。「もし、今、トイレが使えなくなったら!？」と想像して我が家に必要な準備をしましょう。トイレ後の手指衛生の用意も忘れずに!

